第1章　わたしたちのまち　かわさき

1 川崎市について知ろう

川崎市の形



川崎市を指でなぞってみましょう。
どんな形をしているでしょうか。



神奈川県の形

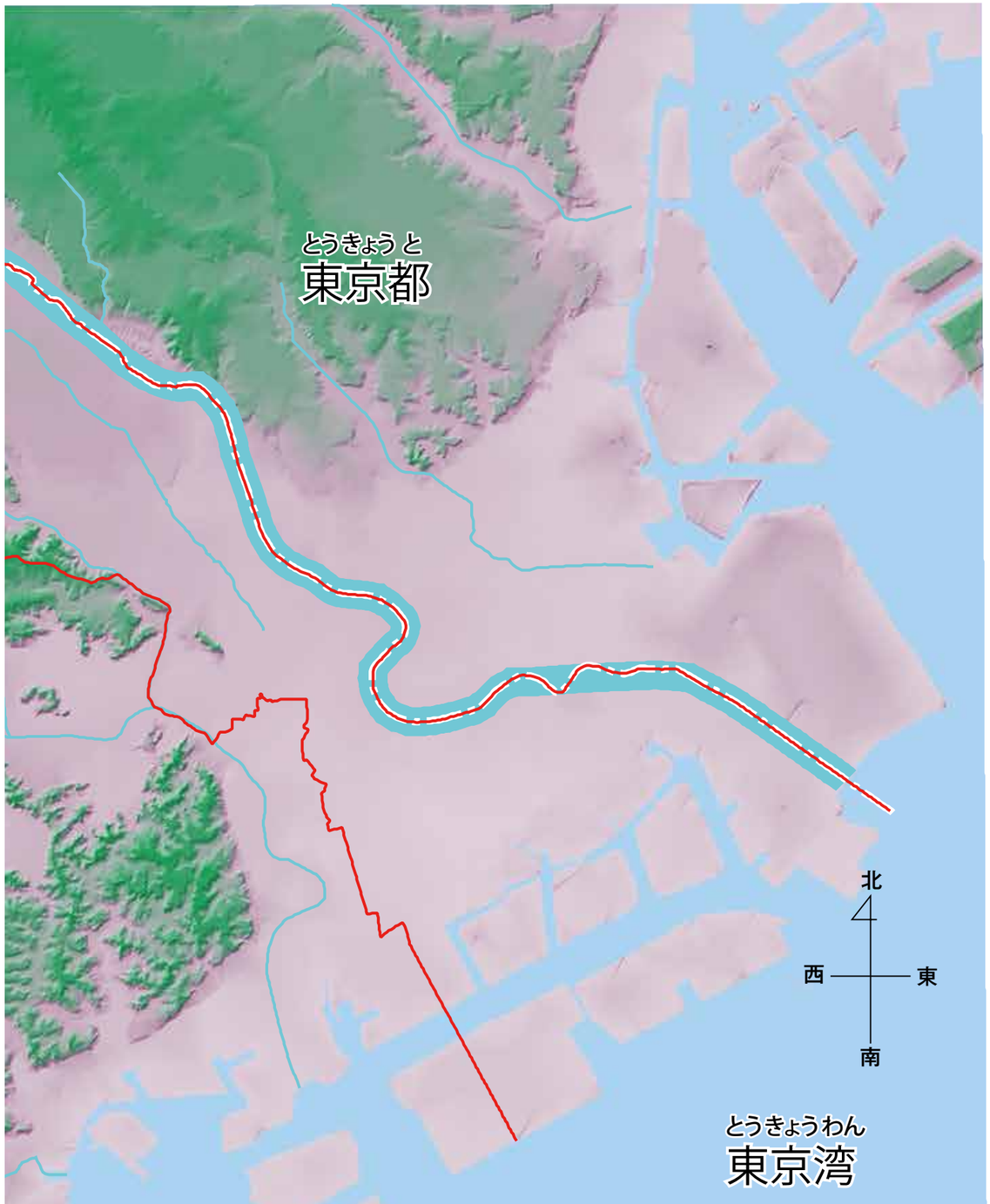
これは神奈川県だよ。
まわりには、どんな都道府県があるのかな。

横浜市

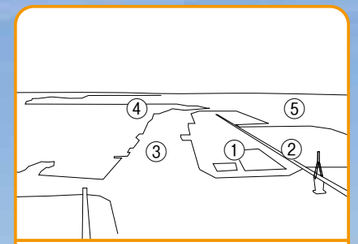


川崎市はどこにあるのかな。
横浜市や東京都、東京湾などの
言葉や方位を使って表してみよう。

資料協力　神奈川県立生命の星・地球博物館



海岸に沿った埋立地の様子



①扇島　②首都高速湾岸線
③京浜運河　④羽田空港
⑤東京湾



（矢印の方向から見ています。）

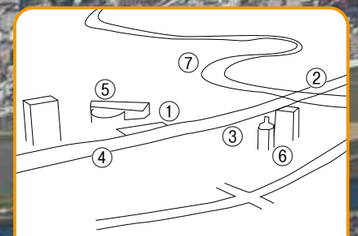


埋立地には、どんな建物が多いですか。
みなさんの住んでいる所とどこがちがいますか。

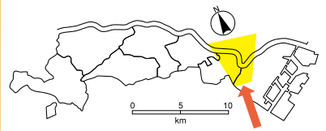
川崎駅・市役所の近くの様子



川崎駅の周りには、どんな建物が多いですか。
みなさんの住んでいる所とどこがちがいますか。



①ＪＲ川崎駅　②京浜東北線
③京急川崎駅　④京浜急行本線
⑤ラゾーナ川崎
⑥川崎市役所　⑦多摩川



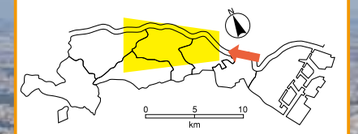
多摩川に沿った平地の様子



平地には、どんな建物が多いですか。
みなさんの住んでいる所とどこがちがいますか。



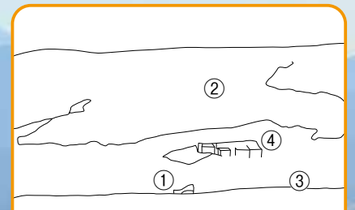
①等々力緑地　②ＪＲ南武線
③多摩川　④武蔵小杉駅
⑤東海道新幹線・横須賀線
⑥東急東横線



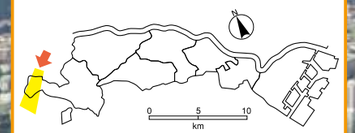
小高い丘が続く多摩丘陵



川崎駅の周りや平地とくらべると、どんな様子ですか。
みなさんの住んでいる所とどこがちがいますか。



①はるひ野駅
②黒川街道特別緑地保全地区
③小田急多摩線
④川崎市立はるひ野小中学校



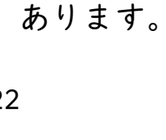
川崎市の地形や気候



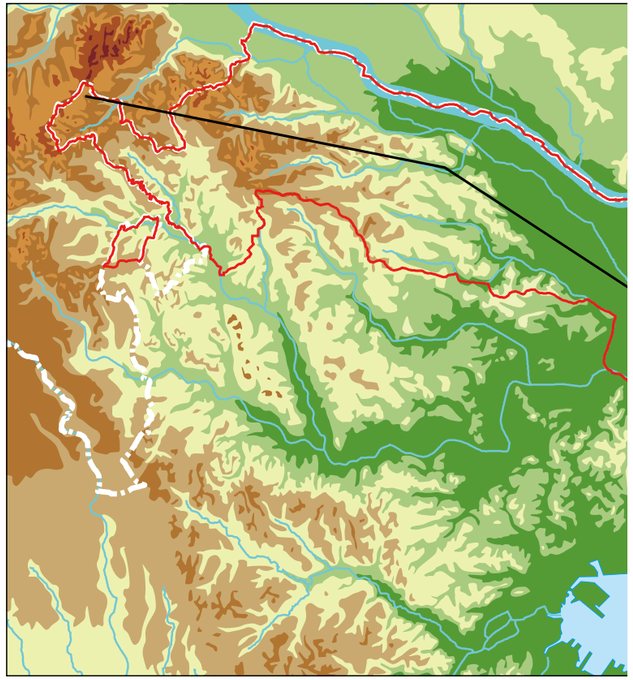
川崎市の地形には、どんな特ちょうがあるでしょう。

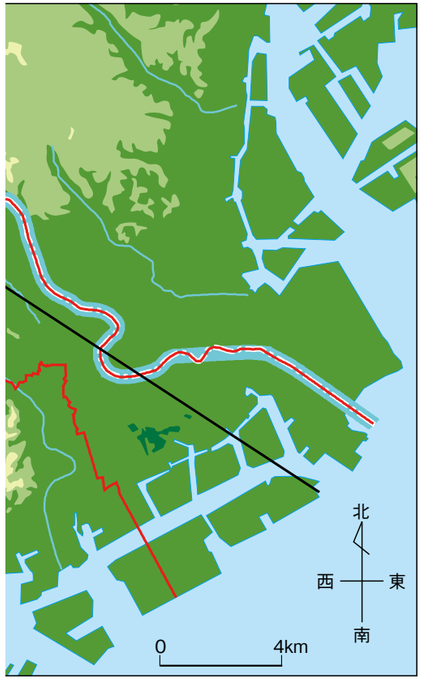


川崎市の西の方は…。
川崎市の東の方は…。

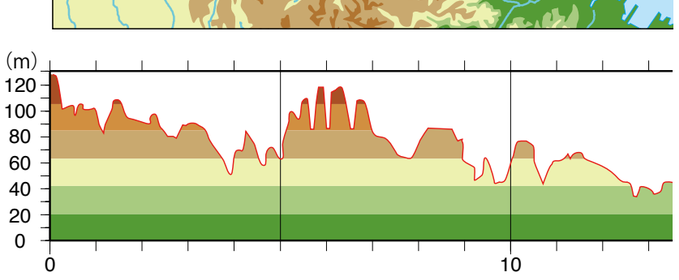


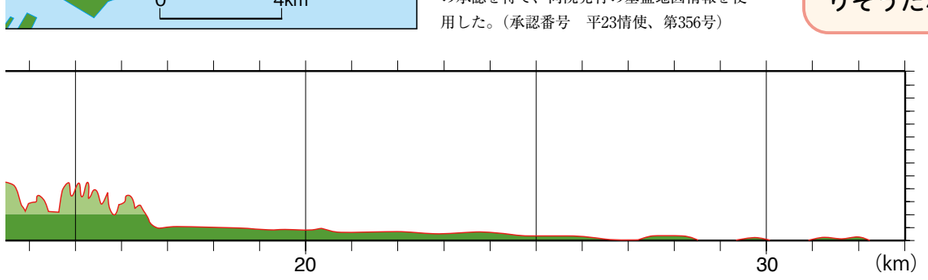
川崎市の形は、何の形ににているかな。



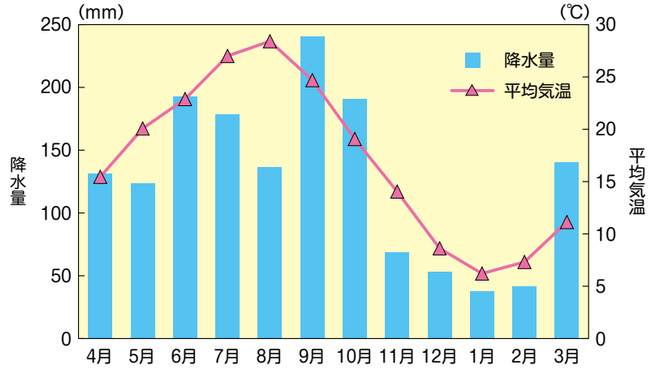


この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号　平23情使、第356号）





資料協力　神奈川県立生命の星・地球博物館



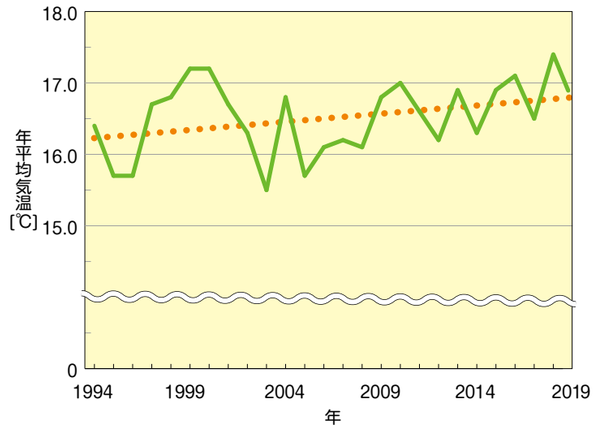
▲川崎市の月別平均気温および降水量（2015～2024年の平均　川崎市環境総合研究所調べ）

川崎市と他の都市の雨温図をくらべてみると、それぞれの特ちょうがわかりそうだね。



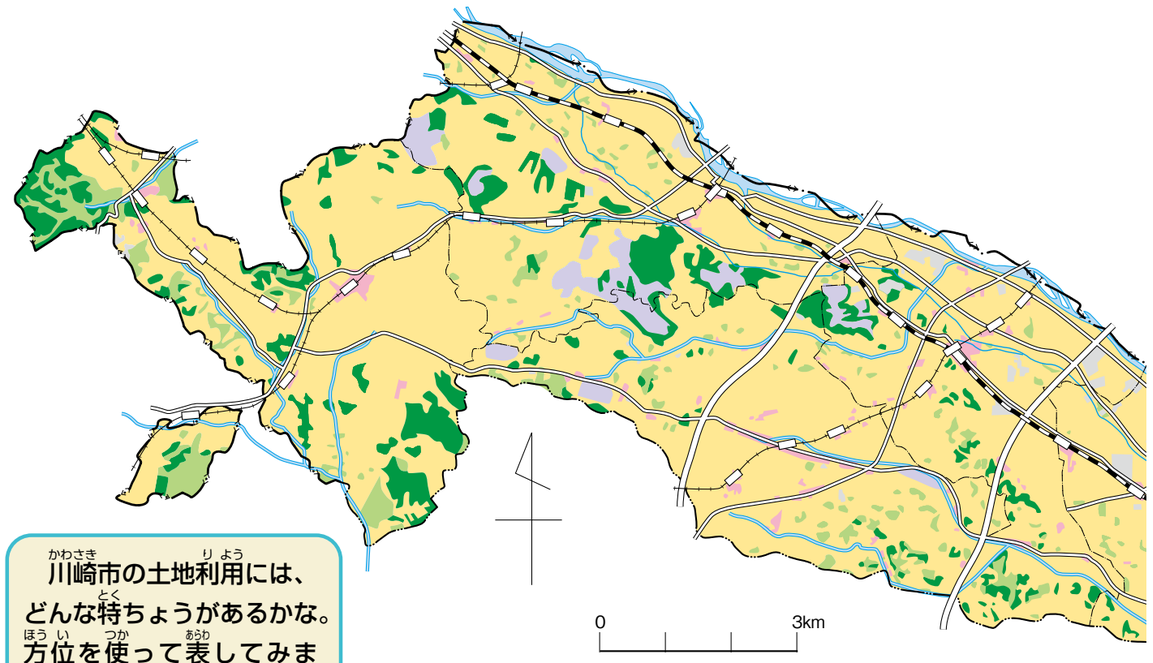
川崎市は、東京都と横浜市にはさまれた位置にあります。北西と南東にのびた地形で、麻生区から海辺までの長さは約32kmあります。川崎市の西部には、「多摩丘陵」という丘陵地が広がっています。最高地点は麻生区黒川の148mになります。また、多摩川に沿った低い土地のあたりを「多摩川低地」といいます。土地の高さは河口付近で0.5m、多摩区の中野島駅付近が約25mになります。そして、海に面しているあたりには「埋立地」があります。埋立地は人工的に作られた土地で、工場や発電所などがあります。

また、川崎市は、年平均気温が17.0℃（2020年）、年間降水量は1687.5mm（2020年）で比較的温暖な気候です。地球温暖化の影響のほか、都市化の進行により気温が上昇しています。



▲川崎市の気温変化（2019年川崎市環境総合研究所調べ）

川崎市の人口と土地利用



川崎市の土地利用には、どんな特ちょうがあるかな。方位を使って表してみましょう。





緑や田畑が多いのは、どのあたりかな。



工場が集まっているのは、どのあたりかな。

川崎市には、川崎区、幸区などの７つの区があります。そしてそこには、約150万人が住んでいます。東京都や横浜市との交通が便利なこともあって、年々人口がふえています。最近では主に、川崎区や中原区の工場だったところにマンションが建ち、幸区では、鉄道の操車場だったところにマンションが建っています。麻生区では田畑や森林だったところが住宅地にかわって人口がふえてきています。

区	面積(平方ｋｍ)	人口(人)
川崎区	40.25	232921
幸区	10.09	175586
中原区	14.81	269692
高津区	17.10	236515
宮前区	18.60	234920
多摩区	20.39	229305
麻生区	23.11	180051

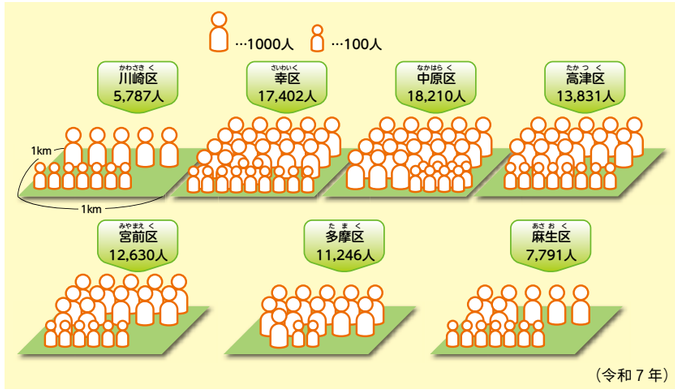
▲区ごとの面積と人口（令和７年12月）

人がたくさん住んでいる区はどこかな。





人口密度とは１平方km当たりの人口の割合のことで、その土地のこみぐあいがわかりますよ。



▲区ごとの人口密度

川崎市内を通る鉄道


▲京王相模原線


▲小田急小田原線


▲東急田園都市線



▲ＪＲ横須賀線

市内を通る鉄道

川崎市内には、たくさんの鉄道が走っています。川崎市を縦断するようにJR南武線が走っています。南武線は川崎駅から東京都の立川駅をむすぶ路線です。他にも川崎市を横切るように鉄道がたくさん走っています。川崎市を走る鉄道の多くが、横浜市や東京など大都市をむすんでいるので、買い物や通勤、通学にとても便利です。多くの人が電車を利用し、東京都や横浜市などに出かけていきます。

ＪＲ東海道線
川崎 ― 東京（18分間）

ＪＲ東海道線
川崎 ― 横浜（15分間）

京急線
京急川崎 ― 羽田空港（16分間）



▲東急目黒線

▲相鉄線

ＪＲ東急東横線
武蔵小杉 ― 渋谷（12分間）

小田急小田原線
登戸 ― 新宿（快速急行で15分間）

凡　例
- 新幹線
- JR 線
- 小田急線
- 京王線
- 京急線
- 東急線
- 有料道路



鉄道は、どこにつながっているかな。


▲東急東横線


▲ＪＲ京浜東北線

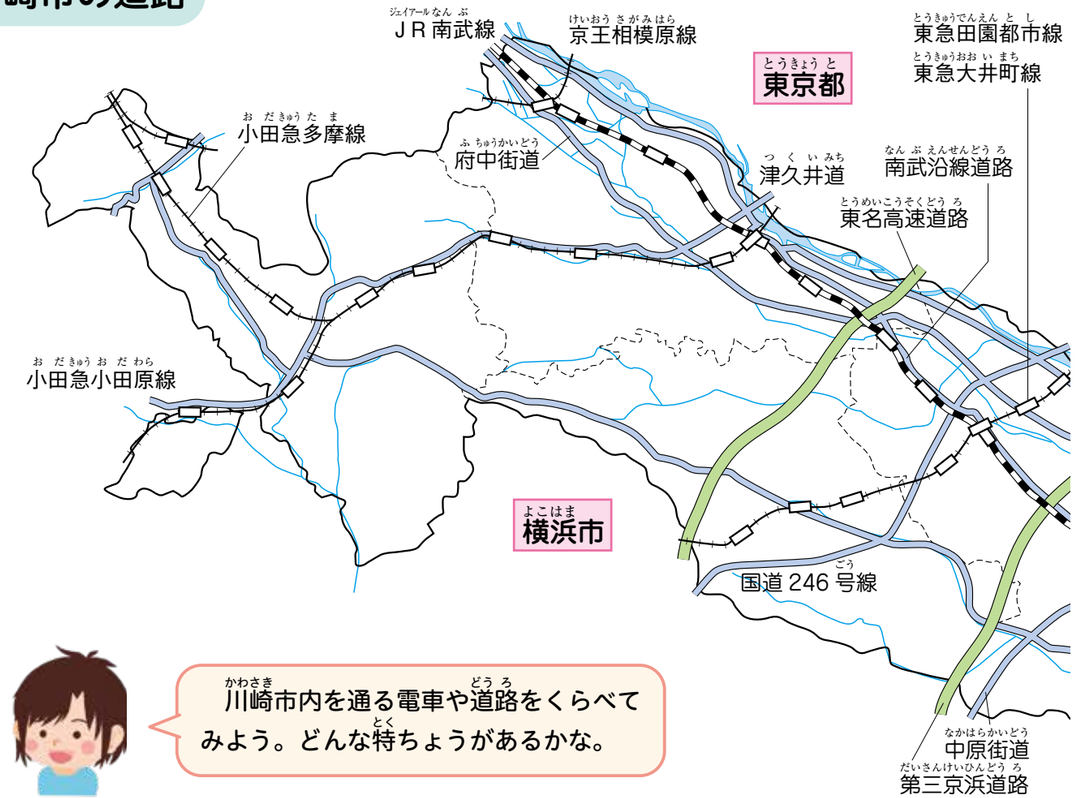


▲京急線


▲ＪＲ東海道線

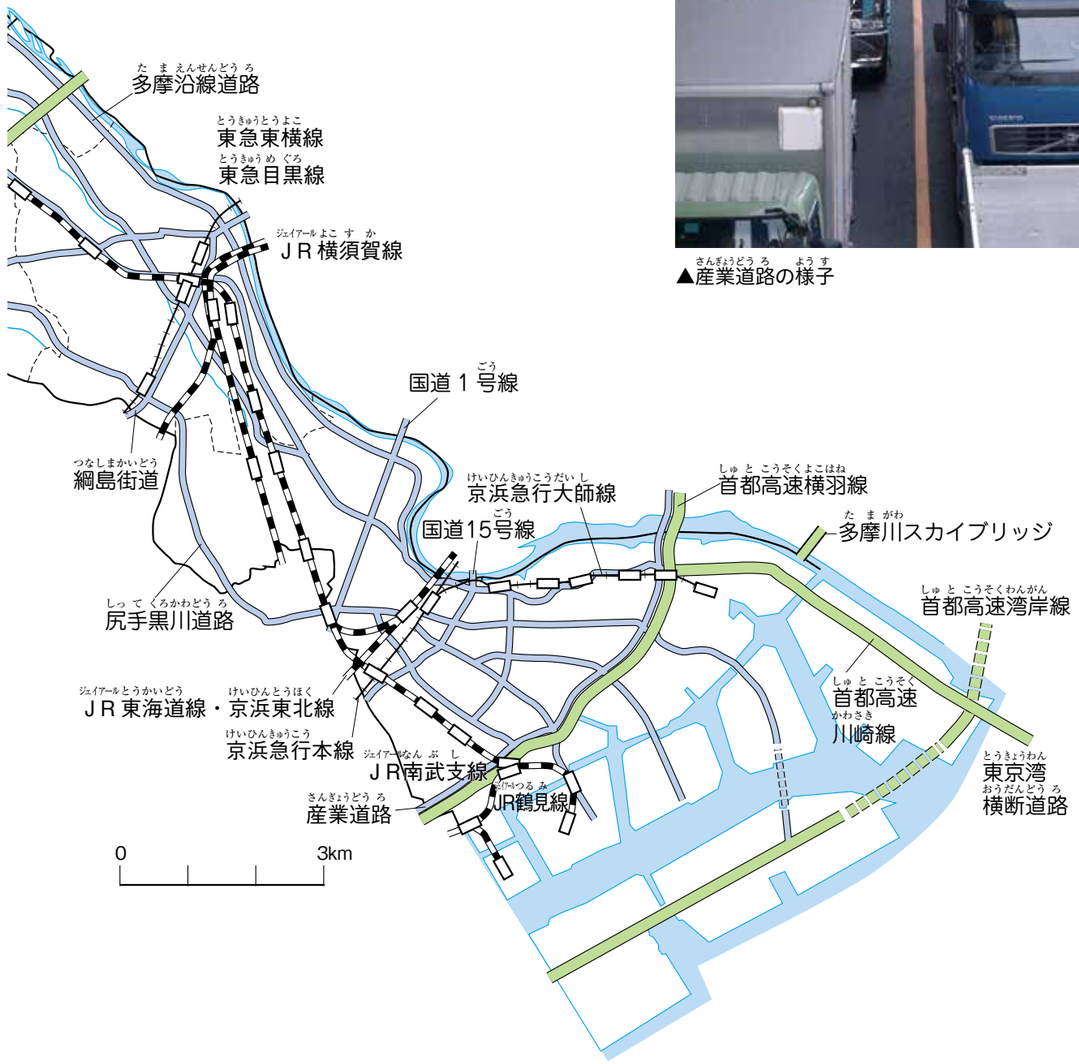

▲ＪＲ南武線

川崎市の道路




▲大師ジャンクション


▲産業道路の様子



川崎市内を通る電車や道路をくらべてみよう。どんな特ちょうがあるかな。

市内を通る道路

川崎市内には、東名高速道路や第三京浜道路、首都高速道路など自動車専用道路が通っています。これらを利用することで、全国に物を運んだり、東京や横浜など各地に出かけていったりするときに便利です。一方、細長い市内を移動するために、多摩川沿いを走る多摩沿線道路、ＪＲ南武線と並行して走る南武沿線道路、横浜市よりを走る尻手黒川道路などがあります。また、さまざまな製品を運ぶために市内を多くのトラックが走っています。

東名高速道路
東名川崎ＩＣ ― 渋谷（20分間）

首都高速横羽線
大師ＪＣＴ ― 東京駅（30分間）

首都高速湾岸線
川崎浮島ＪＣＴ ― 横浜駅（16分間）

市役所の周りの様子



川崎駅の周りには、どんなしせつがあるかな。なぜこのようなしせつが集まっているのかな。



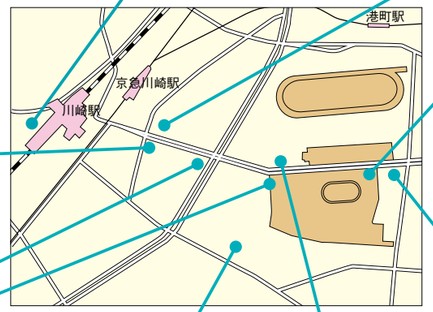
▲ミューザ川崎シンフォニーホール



▲川崎市議会議場



▲川崎市役所





▲富士見公園



▲川崎区役所



▲川崎市立労働会館（休館中）



▲川崎市立病院



▲カルッツかわさき（川崎市スポーツ・文化総合センター）



▲川崎市教育文化会館

公共しせつというのは、国や市、区が運営、管理しているしせつのことです。



川崎駅周辺には、川崎市役所や区役所など市民が生活しやすいようにするためのしせつがあります。また、図書館やカルッツかわさきなど市民が楽しんだり、学んだりするしせつも整っています。そして、市役所の中には、市民の生活にかかわることを決める市議会議場があり、市民の生活をよりよくするためのきまりなどを話し合っています。

海沿いの埋立地



海に面しているところは、どんな様子かな。



▶運河の様子



▲工場の様子

運河とは、埋立地と埋立地の間の船の通り道です。川崎港でいちばん大きな京浜運河は、はばが700mもあります。大きな船も通れるように、海の底を12mもほり下げています。



川崎区の海沿いには埋立地があり、石油化学コンビナートや船をつくる工場などがあります。港が近いので、原料を海外から船で運んできたり、工場で作ったものをすぐに海外に運んだりできるのでとても便利です。高速道路も近くにあるので、できた製品を全国へいち早く運ぶことができます。

また、殿町地区には、健康や福祉、環境に関する研究を行っている「キングスカイフロント」とよばれるしせつがあります。2022年に多摩川スカイブリッジが完成したことで、多摩川の対岸にある東京都大田区にある研究開発しせつや羽田空港と行き来がしやすくなりました。

緑の多いところの様子

台地に広がる農業

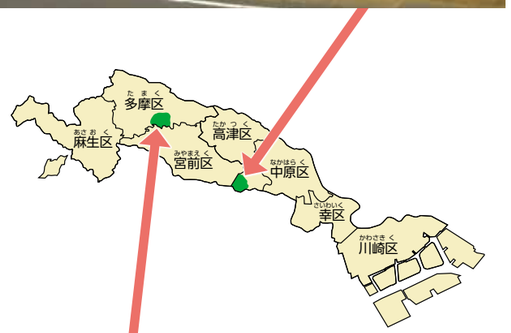


▶丘の上に広がる畑



高津区の南側にある久末地区は小高い土地が広がっているよ。どんなところかな。

高津区の久末では、野菜づくりが行われています。日当たりのよさ、水はけのよさが野菜づくりに適しています。



川崎市に残された自然　生田緑地





多摩区に緑が広がっているところがあるよ。どのような様子なのかな。



広さはおよそ179.3haで、東京ドーム38こ分もの広さがあるんだよ。

生田緑地は川崎市最大の緑地公園です。多摩丘陵のような山の多い地形の中に自然林が広がっており、住宅地の多い川崎市の中でも、豊かな自然と、気軽にふれ合えるところです。

自然と調和する　新しいまちづくり



▲はるひ野のまちの様子



麻生区の西にある、はるひ野駅の近くでは、どのようなまちづくりをしているのかな。



なぜ、家を建てるときに、きまりがいろいろあるのかな。



▲黒川谷ツ自然公園

はるひ野「まちなみ協定」（一部）

- 家の屋根やかべは、落ち着いた色にしましょう。
- 道路に面した場所に植物を植えましょう。
- へいを作るときは、生垣にするか、向こうが少し見えるようにしましょう。



▲住宅の様子

麻生区の西部、小田急線のはるひ野駅を中心に新しいまちづくりが進んでいます。住宅地には、建物の色や形、敷地に植物を植えることなど、さまざまなルールが「まちなみ協定」に定められています。いつまでも美しいまちなみを守り、住みよいまちにしていこうという思いが、そこにこめられています。駅の北口には「黒川谷ツ自然公園」が広がります。3.2haの広大な敷地には昔からの自然が残され、ゲンジボタルや、キイトトンボなど、貴重な動植物のすみかになっています。

2 川崎市のうつりかわり

昔と今の川崎市

川崎市は、1924（大正13）年７月１日に川崎町、御幸村、大師町の合併により誕生しました。このころの川崎市は、多摩川の水を使った野菜づくりや梨・桃の栽培、海では海苔の養殖などがさかんに行われていました。また、臨海部や多摩川沿いには大きな工場がたくさん立ちならび、全国からはたらく人が集まってくる工場のまちでもありました。

1939年（昭和14年）



▲川崎駅周辺



▲武蔵小杉駅周辺

2022年（令和４年）

▲川崎駅周辺

▲武蔵小杉駅周辺



昔も今も同じようにあるものを手がかりに写真を見くらべてみよう。

今と昔では、まちの様子はどう変わったのかな。



学習問題を考えてみよう

人々が生活で使用していた昔の道具

〈昔の道具〉



▲せんたく板



▲かまど



▲七輪

（写真：PIXTA）



▲井戸



▲いろり

みんなも昔の道具を体験してみよう！





▲ランプ

〈川崎市立日本民家園〉



川崎市立日本民家園は、全国各地の古い民家が集められています。その中には、麻生区金程にあった伊藤酉造さんの家も保存されています。

この「伊藤家住宅」は、およそ300年以上前に建てられた農家です。民家としては神奈川県で最初に重要文化財に指定されました。



▲伊藤家住宅



▲伊藤家住宅の中の様子



▲石臼体験

●川崎市立日本民家園
多摩区枡形７-１-１　TEL.044-922-2181
小田急線向ヶ丘遊園駅より徒歩13分（生田緑地内）

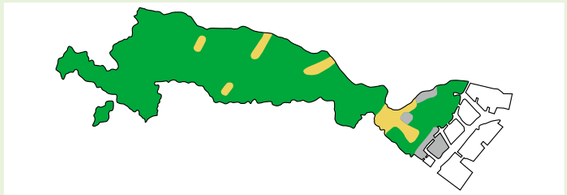
民家園についてもっと知りたいときは ➡

土地利用の変化

大正から昭和の初めごろにかけて、川崎の海では埋め立て工事が行われました。埋立地ができると、そこに大きな工場が立ちならび、日本の工業生産の中心地として発展をしました。その後、市内各地でまちの開発が進み、多くの人が住んだり、買い物におとずれたりする大都市へと変化をしていきました。

①大正～昭和の初めごろ

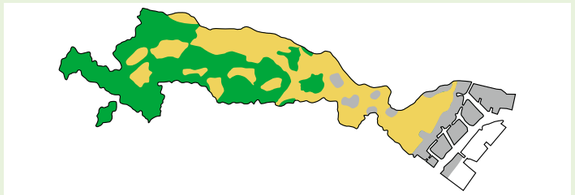
1924年～1940年ごろ（大正13年～昭和15年ごろ）の土地利用



▲臨海部の埋め立ての様子

②昭和の中ごろ

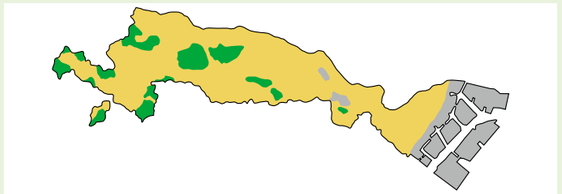
1955年～1975年ごろ（昭和30年～昭和50年ごろ）の土地利用



▲昭和20年ごろの生田根岸駅前（多摩区）の様子

③平成から令和

1998年～2022年ごろ（平成10年～令和4年ごろ）の土地利用



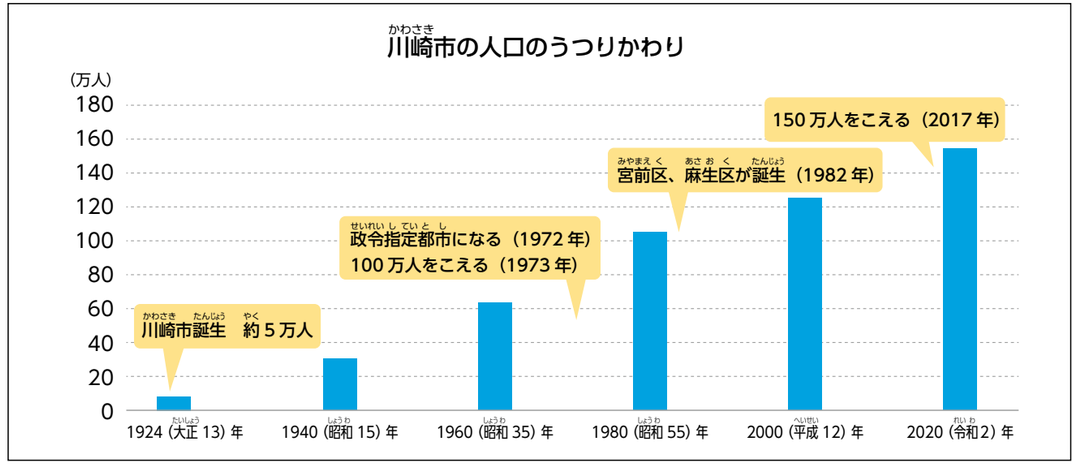
▲昭和38年ごろの加瀬山付近（幸区）の様子

▲土地利用の変化



土地利用は、どのように変化してきたのかな。

人口のうつりかわり



（『川崎市統計データブック』より）

1950年代になると京浜工業地帯の中心として発展する一方、交通面が整備されたり、大きな団地もたくさん立ちならんだりして、人口が大きく増えました。1972（昭和47）年には政令指定都市になり、翌年には人口は100万人をこえました。近年は、交通の利便性のよさなどから工場あと地で大きな再開発が進み、2017（平成29）年には人口は150万人をこえました。

川崎市の人口は今後も増え、2030（令和12）年には、約160万３千人になると考えられています。

○政令指定都市の中でも全国人口６位の川崎市

政令指定都市人口（人）		
1	横浜	377万8318
2	大阪	275万4742
3	名古屋	233万3406
4	札幌	197万5065
5	福岡	161万3361
6	川崎	153万9081
7	神戸	152万7022
8	京都	146万4890
9	さいたま	132万4591
10	広島	120万1281

（2020年国勢調査より）

※政令指定都市…全国に20ある人口50万人以上の市のこと。



人口が増えることで、まちの様子はどう変わってきたのかな。

交通網のうつりかわり

川崎市内では、大正から昭和の初めごろにかけて、現在も使われている鉄道路線があいついで開通しました。その後、路線が伸びたり新しい駅ができたりして、他のまちへ移動するのにとても便利なまちになりました。

また、道路や橋の整備も進み、多くの車が行きかうようにもなりました。

昭和の初めごろの鉄道や道路の様子

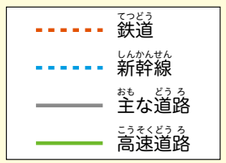


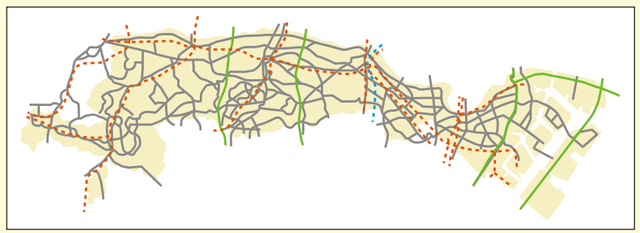
▲1925(大正14)年に完成した六郷橋

▲市内を走っていた市電(1969年に廃止)

▲砂利を運んでいた南武鉄道(今のJR南武線)

現在の鉄道や道路の様子







▲東京湾アクアライン(千葉県側から)



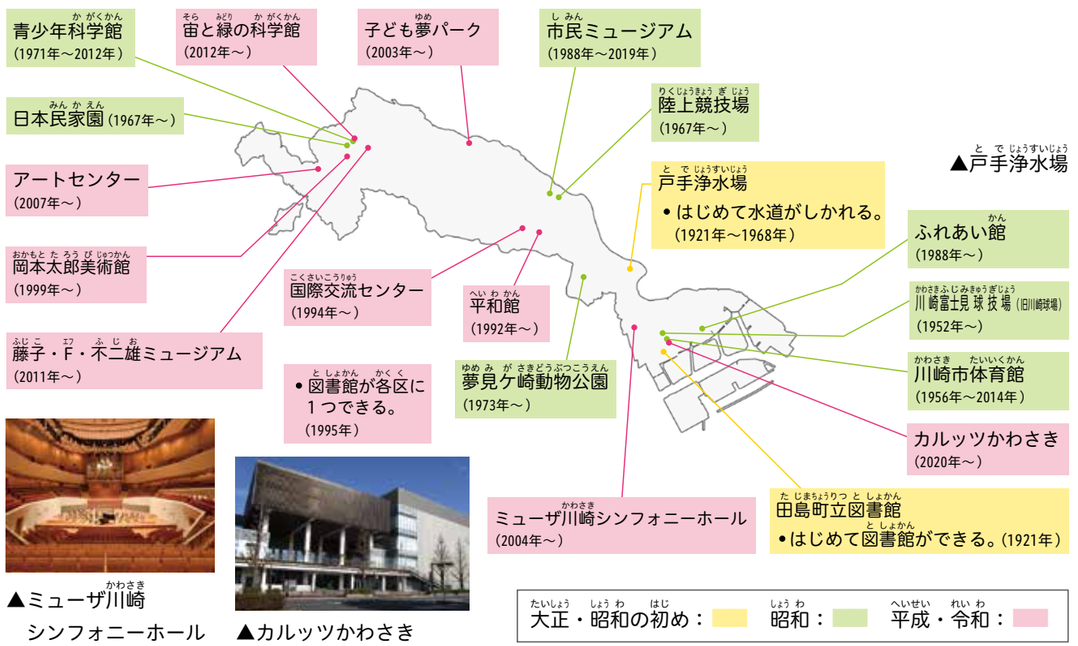
▲多摩川スカイブリッジ



▲2004(平成16)年に開業した小田急はるひ野駅

公共しせつのうつりかわり

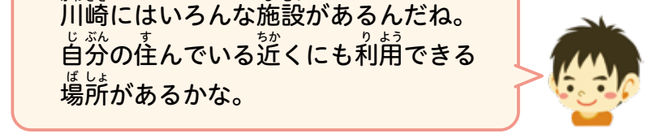
川崎市内には多くの公共しせつ(市民のためのしせつ)があります。公共しせつは市役所が中心に整備を進め、市民一人一人がおさめた税金を使ってつくられたり、運営されたりしています。



▲ミューザ川崎シンフォニーホール

▲カルッツかわさき

川崎市ができた大正から昭和の初めごろにかけて、浄水場やごみ処理場、警察署や消防署など、生活や安全に必要な公共しせつができました。昭和の中ごろには、スポーツしせつや博物館、動物園など人々が楽しめるような公共しせつができ始めました。最近では、古くなったスポーツしせつや文化しせつを新しいものにし、よりたくさんの市民が快適に利用できるようになっています。

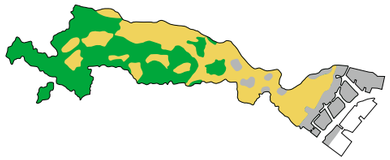


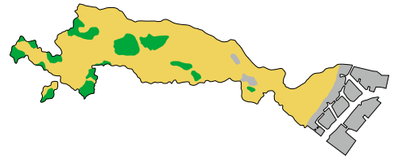
市のうつりかわり年表

川崎市のうつりかわりを年表でまとめると、どのようなことがわかるでしょうか。



学校の副読本などを参考にして、自分の住む地域のうつりかわりについても調べてみましょう。

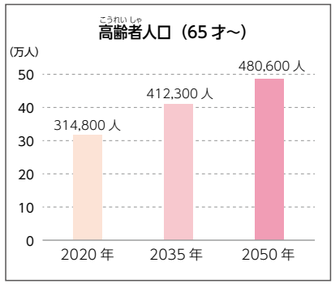
	明治・大正・昭和の初め	昭和
道具	・洗濯板 ・ほうき ・ちりとり ・かまど ・七輪    ▲洗濯板　▲ほうき　▲ちりとり　▲七輪	・洗濯板 ・洗濯機 ・ほうき ・ちりとり ・掃除機 ・ガスコンロ 提供：東芝未来科学館 ▲洗濯機 提供：東芝未来科学館 ▲掃除機 提供：東京ガス　ガスミュージアム ▲ガスコンロ
人口	• 川崎市誕生（1924年）：50,188人 • 近くの町や村が仲間入りし、人口がおよそ31万人になる。（1940年）	1973年：1,001,368人 1982年：1,055,509人 • 人口が増えて、宮前区と麻生区が誕生する。（1982年）
土地利用		
まちの様子（公共しせつ・交通）	○市内の小学校の数は21校ほどだった。 ○水道やごみ処理場、警察署や消防署、図書館ができる。 ○大きな道路がほそうされる。 ○1927年ごろから川崎市内に鉄道が開通するようになった。 	○市内の小学校の数は86校ほどだった。 ○スポーツしせつや博物館、動物園などができる。 ○すべての区に公立図書館ができる。 ○高速道路が開通した。

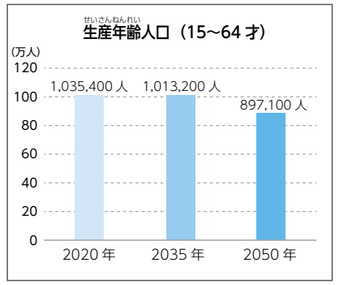
	平成・令和
道具	・全自動洗濯機  提供：東芝ライフスタイル株式会社 ▲全自動洗濯機 ・掃除機 ・ロボット掃除機 提供：東芝ライフスタイル株式会社 ▲ロボット掃除機 ・ガスコンロ ・IHクッキングヒーター 提供：東芝ライフスタイル株式会社 ▲IHクッキングヒーター
人口	2017年：人口が150万人をこえる 2025年：1,558,990人をこえる。（川崎市HP）
土地利用	
まちの様子（公共しせつ・交通）	○小学校の数が119校となった。（2025年） ○新しいスポーツしせつや文化しせつ、美術館や音楽しせつなどができる。 ○駅近くの大工場のあと地が再開発され、大きなショッピングセンターや高層マンションが建てられるようになった。  ▲東名高速道路 川崎インターチェンジの様子

これからの川崎市

右のグラフから、どんなことがわかるか、話し合ってみましょう。







（国勢調査、川崎市将来推計人口（令和３年４年）より）

川崎市の人口は、2030（令和12）年ごろに160万人をこえ、その後、減少していくと考えられています。そして、超高齢社会になるといわれています。2050（令和32）年ごろには、高齢者の人口は今よりもおよそ17万人増えると予想されています。その一方で、生産年齢人口はおよそ14万人減ると予想されています。

川崎市では、高齢者だけでなく、すべての市民が、いつまでも自分らしく、やりたいことを続けながら生活できる地域をつくろうという考えのもと「川崎市地域包括ケアシステム」という制度をつくりました。

川崎市役所地域包括ケアシステム担当　担当の方のお話

だれかの手助けが必要になっても、だれもが住みなれた家や地域でくらし続けることができるように、専門家やボランティア、住民が助け合っていこうという取り組みを、地域包括ケアシステムといいます。川崎市では、高齢者や障がい者、子どもたちなどすべての市民を対象として取り組んでいます。

川崎市は他の大都市にくらべて、若い世代の人口が多く、元気がある都市といえます。そして、市内にはボランティア団体や企業がたくさんあります。そうした力と、コンパクトなまちの特ちょう（市の広さが政令指定都市の中で一番せまい）を生かして、すべての地域住民で互いに支え合う仕組みを整えています。



住みなれた地域でくらし続けるために小学生のわたしたちが、できることってどんなことがあるのかな？

地域包括ケアシステム
くわしく知りたいときは ➡

川崎市は2024（令和６）年に、市制100周年をむかえました。誕生しておよそ100年の間に、まちの様子や人々の生活は大きく変わってきました。

みなさんが大人になるころ、川崎市はどんなまちになっているでしょうか。

川崎市役所地域包括ケアシステム担当　担当の方のお話

支え合う仕組みづくりと同じく大事なことは、食事や歯みがき、運動、すいみんなど、自分が年をとってもなるべく健康でいられる生活習慣です。みなさんがしたいことを十分に行うためには、元気であることが大切です。このようなちょっとした取組を、一人一人みんなが積み重ねていくことによって、だれもが安心で幸せな住みやすいまちがつくられると思います。

～地域包括ケアシステムの事例～





⬆TEKTEK 事業購入品
⬅TEKTEK アプリ画面





⬆1 階 部分 いこいの家（上）
いこい 元気 広場事業 （下）

これまで学習したことをふり返り、川崎市のこれからについて考え、話し合ってみましょう。



3 川崎市ではたらく人たち

川崎市で作られているもの

主な工場　● は研究開発型工業団地









主な農作物



種別		品目・商品名	取扱期間
野菜	キャベツ	久末のキャベツ	4～7月、10～2月
	ブロッコリー	久末のブロッコリー	4～6月、10～2月
		宮前のブロッコリー	4～6月、10～2月
	トマト	久末のトマト	10～5月、6～8月
		宮前のトマト	10～5月、6～8月
		岡上のトマト	3～6月
		黒川のトマト	3～6月
	だいこん	宮前のだいこん	10～5月
	カリフラワー	久末のカリフラワー	4～6月、11～1月
	ほうれんそう	全域のほうれんそう	通年
	こまつな	全域のこまつな	通年
	たまねぎ	橘の湘南レッド	6月上～7月中
	のらぼう菜	菅ののらぼう菜	2月下～4月下
	きゅうり	岡上のきゅうり	9～12月
		黒川のきゅうり	7～12月
果実	なし	多摩川梨	8～10月
	うめ	生田の梅	5～6月
	メロン	宮前メロン	6月下～7月上
	かき	柿生禅寺丸柿	11～3月
花き	パンジー	中原区のパンジー	10～11月
	はなもも	馬絹の花桃	1月下～2月下
	こぎく	馬絹の小菊	6～7月、10～11月
	シクラメン	全域のシクラメン	11月中～1月上
加工品	ワイン	禅寺丸柿ワイン	12月～
	梅干し	生田の梅干	通年

（川崎市「かわさき農業の概要」より）



「だしの素」を作る工場

川崎市川崎区鈴木町には、食品を作る工場があります。この工場は、1914年から商品づくりを始めています。ここでは、毎日たくさんの食品を作っていますが、とくに多く作っているのが、おみそしるや煮物などの和食を作る時にかかせない「だしの素」です。工場は東京ドーム８こ分の広さがあり、京急大師線の４駅にわたる敷地に、およそ３千人がはたらいています。工場にしてはめずらしく、近くに住宅街や多摩川があります。





▲空から見た様子（赤い線の中が工場）



川崎市にはたくさんの工場があります。みなさんの地域の工場では、どんなものが作られているのでしょうか。

「だしの素」って何だろう？

「だし」とは、“料理をおいしくする素”のことです。日本でよく使われているだしは、こんぶやかつおぶしなどを煮出したものです。それを、家庭で手軽に使いやすく顆粒状（粉より大きなつぶ）に加工したのが「だしの素」です。この工場では、かつおぶしを原料にして「だしの素」を作っています。







▲この工場で作られている「だしの素」

「かつおぶし」

かつおぶしは、カツオをいぶしたけむりの熱でかんそうさせ、かおりをつけた食べ物です。世界一かたい食品といわれています。



かたいかつおぶしから、どうやって「だしの素」を作っているのかな？



「だしの素」ができるまで



原料のかつおぶしがどのように「だしの素」へすがたを変えていくか、工場の中の様子を資料から読み取ってみましょう。

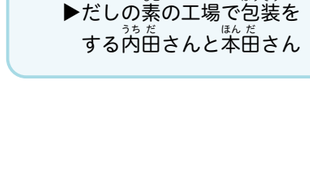
①原料のかつおぶしを入れる ▶ ②かつおぶしをくだく ▶ ③節粉と調味料を混ぜて練る（混練）

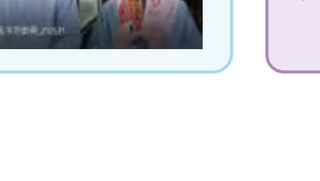


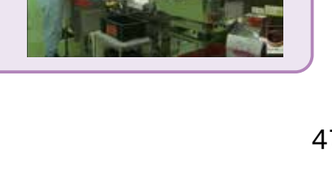




▶ ④造粒 ▶ ⑤包装







顆粒状にし、かんそうさせることでかおりや味をたもつことができます。

ふくろ、箱に包装され、けんさに合格したものが出荷されます。

「だしの素」を作る人のお話

わたしたちは安全でおいしい「だしの素」を作るために、とくに衛生面に気をつけています。とくべつな服を着て、かみの毛やほこりが工場に入らないようにしています。また、たくさんのけんさをして、みなさんにおいしく安全な「だしの素」をとどけるようにしています。



▶だしの素の工場で包装をする内田さんと本田さん

「けんさ」
…安心安全な食品づくり

原料がきちんとまざっているか、つぶの色や大きさ、形がそろっていること、ふくろづめしたあとの重さが足りているかなど、お客さんの手元にとどくまでに、さまざまなけんさをしています。



商品の研究・開発

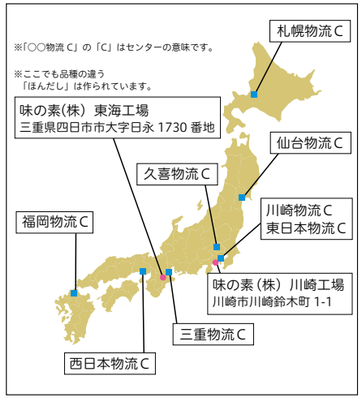
この工場の中には、「だしの素」を作るだけでなく、研究・開発のためにはたらいている人もいます。ここでは、お年寄りから子どもまで、だれもがおいしく食べられることや、より使いやすい商品にするために、研究しています。



できあがった商品のゆくえ

原料のカツオは焼津（静岡県）や枕崎（鹿児島県）で水あげされ、かつおぶしに加工されます。その後、川崎工場に運ばれ、「だしの素」が作られます。工場から出荷された商品は全国の物流センターに運ばれ、地域のはん売店へとどけられ、わたしたちが手にすることができます。

また、この商品は海外でもたいへん人気があり、アメリカやタイ、ブラジルなど世界各国で売られています。



トラックの中にどのように商品がつめられているのか動画で見ることができるよ。➡

パッケージのひみつ

原材料や成分、賞味期限だけでなく、「だしの素」を使ったおすすめメニューやレシピの二次元コードをのせています。









お料理のはばが広がるね。他にはどんなことが書いてあるかな？

地域とのかかわり

この工場は1914年から今の場所（川崎市川崎区鈴木町）で商品づくりを始めています。工場がある地域には、住宅街や多摩川があります。



▲1914年ごろの工場の様子

安心・安全な商品を作るだけでなく、地域にくらす人たちとのかかわりも大切にするために、工場見学や出前授業などを行っています。



工場見学

「だし」の工場のほか、スープなどの工場も見学できます。



「出前授業」（小学５年生対象）

リモートでの工場見学や、おいしさ、栄養バランスのよい食事とは何かを学ぶ授業があります。

環境を考えた工場を目ざして

工場では、「だしの素」を作るのにかかせないカツオ資源も大切にしています。かつおぶしになる部分以外も、調味料にしたり、動物のえさや畑の肥料などにしたりして、原料をムダなくカツオを丸ごといかしきっています。資源としてカツオを見守る活動をしています。



環境へのと取り組みをくわしく知りたいときは ➡

多摩川梨ができるまで



1●せんてい

よぶんな枝を切って来年の梨がなる枝をのこすことで育ちやすくしたり、枝をなわでしばったりする作業を行います。



2●花粉をつける

専用のはけで花粉をつけます。花粉には色をつけて、ついているかどうかがわかるようにします。



3●多すぎる実をとる

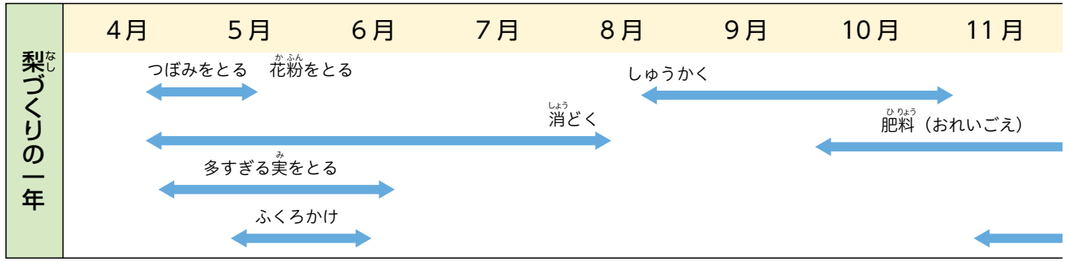
成長した時に実がぶつかり合ってきずつかないように、また栄養がしっかりと実にとどくように実をとる作業をします。

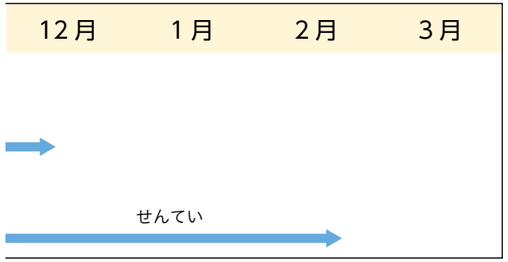




4●しゅうかく

しゅうかくは、気温が高くない早朝から行います。





1年間かけて手間ひまかけて、大切に梨を育てているんだね。





せんてい作業で切り落とした部分には、薬をぬります。かんそうをふせぎ、木の成長を助けます。



畑にある土には、主に馬のフンやせんていで切られた木のチップが混ぜられています。再利用して作られたたい肥は養分たっぷりです。

梨づくりのひみつ







LEDライトを使って、がい虫が発生しないようにしています。このライトのおかげで、農薬の使用量を少なくすることができます。

【小林さんのたい肥づくり】



さまざまな工夫がなされた多摩川梨なんだね。どうやってわたしたちのもとへ運ばれて来るのだろう。



多摩川梨はどこへ



5●実を箱づめする



6●直せつはん売したり、注文を受けて送る





小林さんの多摩川梨は、全国に楽しみにしている人がたくさんいます。そのため、はん売が始まると、店頭ではすぐに売り切れてしまいます。そんな有名な梨がこの川崎にあるんですね。



きずやいたみが見られ、売り物にならない梨があるときには、買ってくれたお客さんにおまけとして提供しているんだね。



梨農家の小林さんのお話



梨づくりは、１年に一度のしゅうかくのために、年間を通して毎日梨の様子を見守らなくてはいけません。近年では、LEDライトを活用したがい虫対策で農薬にたよりすぎない梨の栽培や、馬のフンや木のチップを使った自然のものを生かしたい肥の活用など、さまざまな工夫をしながら安心・安全でおいしい梨を作る作業を毎日休みなく行っています。しゅうかく時は、１日600～1000この梨を、たった２人でしゅうかく・選別しています。おいしい梨をみなさんにとどけるために、一生けんめい仕事をしています。

【梨農家の一日】

6：00	畑でしゅうかく １日 300 ～ 800kg
8：30	店で選別作業 箱づめ
10：00	お店を開店 はん売 注文の受付 箱のゆうそうじゅんび 引き取り対応 ※店頭の梨は早い時で、 １時間で売り切れます。
17：30	お店を閉店

地域とつながる多摩川梨

多摩川梨を作る農家さんは、年々減っており今では数けんになっています。あまくておいしい多摩川梨なので、毎年楽しみにしている人もたくさんいます。そこで、これからも梨づくりを続けていくために、地域の方や、わかい世代の人たちに、梨のことを知ってもらう活動を積極的に行っています。











梨農家の田村さんのお話



（田村さんの地域とのつながり……100年以上続く梨農家です。）

作った梨は、直売所や直送でお客さんに買ってもらっています。梨農家としてはたらく中で、お客さんや地域とのつながりを大切にしています。たとえば、自宅の前には直売所がありますが、「梨、おいしかったです。」などと、お客さんと直せつ会話をすることができます。また、近くの学校と協力して、梨の学習を毎年行っています。

新しい人との出会いも大切にしています。わたしのように、古くから中野島のまちに住んでいる人と、新しくこのまちに住む人たちとが、とけこめる環境づくりを心がけています。

川崎市の農業



「かわさきそだち」は川崎市内で生産された農産物のことです。右のシンボルマークは多摩川の青、大地の緑、朱色は生産者と市民が「かわさきそだち」を育てていくことを表しています。

シンボルマークの下のキャラクターは、菜果ちゃんです。頭にかごをのせて「かわさきそだち」を広めています。





わたしたちが住むまちのお店には、どんな「かわさきそだち」があるかな？　探してみよう。

各区の主な農産物



多摩区や麻生区では、農産物をたくさん作っているんだね。土地の様子から考えてみよう。



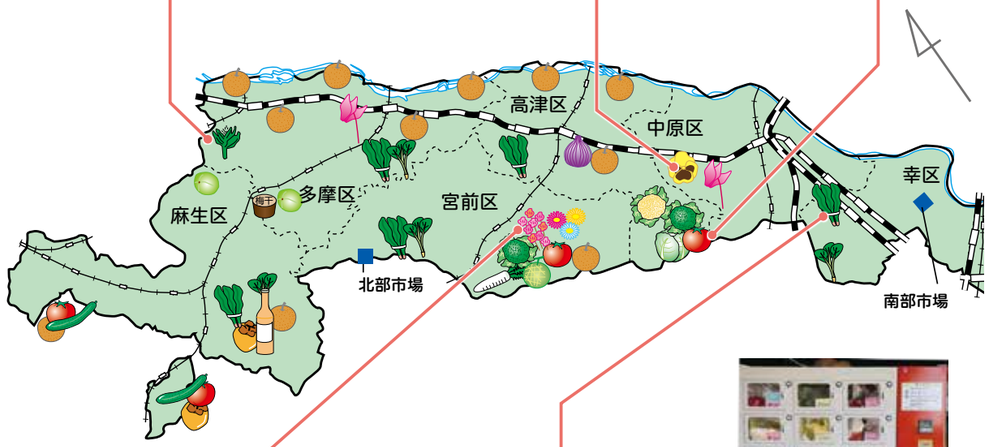
▲のらぼう菜（多摩区）



▲パンジー（中原区）



▲トマト（高津区）





▲はなもも（宮前区）



▲ほうれんそう（幸区、中原区、高津区、宮前区、多摩区、麻生区）



川崎の直売所マップが見られるよ。➡



各区ではいろいろな農産物を育てているね。
自分たちの地域の農産物について調べてみよう。

市内には184か所の農産物直売所があります。また野菜無人販売機もあり、「かわさきそだち」の野菜を手軽に買うことができます。

